

糖尿病

京都武田病院



糖尿病センター長
小川 栄一 氏

Q 種類と原因は。
A 糖尿病とは、膵臓で作られるインスリンの作用不足による、慢性的な高血糖状態のことです。インスリンの分泌が悪くなると、体や脳の働

きを促す栄養、特に糖質(ブドウ糖)が体に取り込まれず、血管障害などの影響が出ま

飲み薬や注射薬は近年 進歩

探血し、血糖値を測る検査で

値に分けられます。随時血糖値は食事の時間を気にせずに探血し、血糖値を測る検査で

ることもお勧めします。
Q 治療について。
A 治療は食事と運動が基

す。糖尿病には自己免疫異常やウイルス感染などによりインスリンが分泌されなくなる1型、遺伝因子や肥満、高脂肪食、運動不足や喫煙などの環境因子によりインスリン分泌の作用不足が起こる2型があります。

Q 検査方法は。
A 検査としての血糖値は、随時血糖値と空腹時血糖値は、随時血糖値が200mg/dl以上ある場合は糖尿病と診断されます。空腹時血糖値は検査当日の朝食を抜いた空腹状態で採血し、血糖値を測る検査です。空腹時血糖値が126mg/dl以上ある場合も糖尿病と診断されます。膵臓からのインスリンの分泌状況も確認できる、75g経口ブドウ糖負荷試験を受け

本で、不十分な場合に薬物療法を行います。薬物には飲み薬と注射薬があります。近年、糖尿病の薬剤は進歩してきています。中でも、血液中の過剰な糖を尿中に積極的に排出させるSGLT2阻害薬は効果が期待されています。また、インクレチン関連薬で週1回の飲み薬と注射薬も出てきました。従来は、飲み薬の効果が弱い場合にインスリン注射薬を使用していましたが、現在では早期から使用して、血糖値を良好に保ち、膵臓のインスリン分泌細胞を保護する方法も積極的に進んでいます。

Q 種類と原因は。

A 糖尿病とは、膵臓で作られるインスリンの作用不足による、慢性的な高血糖状態のことです。インスリンの分泌が悪くなると、体や脳の働きを促す栄養、特に糖質（ブドウ糖）が体に取り込まれず、血管障害などの影響が出ます。糖尿病には自己免疫異常やウイルス感染などによりインスリンが分泌されなくなる1型、遺伝因子や肥満、高脂肪食、運動不足や喫煙などの環境因子によりインスリン分泌の作用不足が起こる2型があります。

Q 検査方法は。

A 検査としての血糖値は、随時血糖値と空腹時血糖値に分けられます。随時血糖値は食事の時間を気にせずに採血し、血糖値を測る検査です。随時血糖値が200mg/dl以上ある場合は糖尿病と診断されます。空腹時血糖値は検査当日の朝食を抜いた空腹状態で採血し、血糖値を測る検査です。空腹時血糖値が126mg/dl以上ある場合も糖尿病と診断されます。膵臓からのインスリンの分泌状況も確認できる、75グラム経口ブドウ糖負荷試験を受けることもお勧めします。

Q 治療について。

A 治療は食事と運動が基本で、不十分な場合に薬物療法を行います。薬物には飲み薬と注射薬があります。近年、糖尿病の薬剤は進歩してきています。中でも、血液中の過剰な糖を尿中に積極的に排出させるSGLT2阻害薬は効果が期待されています。また、インクレチン関連薬で週1回の飲み薬と注射薬も出てきました。従来は、飲み薬の効果が弱い場合にインスリン注射薬を使用していましたが、現在では早期から使用して、血糖値を良好に保ち、膵臓のインスリン分泌細胞を保護する方法も積極的に行われています。